

■ 2-7 南山大学附属小学校

(1)学校としての戦略

本校は、「校訓を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。今後もこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく、育てていきます。

南山学園全体の教育モットーである「人間の尊厳のために」、および小学校の校訓である「かけがえないあなたと私のために」を体現する人を育てることができているかどうかは、小学校の存立にかかわる根本の事柄であり、常に省みて問い続けなければなりません。そのためには、現在行っている校長の講話や、ラウデス（朝の祈り）や静修の場といった、教育理念に対する児童の理解を促す取り組みに加えて、教員や保護者、そして学外者への周知をより強化していくことが重要です。具体的には、校長および指導司祭による教員や保護者への語りかけ、教育モットーに適った実践教育の実施と児童の自己評価、およびその紹介等が考えられますが、より効果的な方法について今後継続して検討していきます。

教育課程・学習指導については、到達目標の具体化と評価基準の更なる明確化について検討すること、および児童の学習意欲の向上を図るために、小学校として、家庭として何ができるかということについて検討し、保護者との連携のなかで有効な方法を見出していきます。

児童指導については、小学校と家庭が連携してあたることが重要です。親同士での交流の中でしか聞けないこともあるので、学校と保護者、保護者同士のきずなを築いていきます。また、教員間での情報共有や協力も欠かせません。学年が変わっても、特に気になる児童についてはフィードバックできる場を設けることが必要であり、それができる雰囲気をつくることも大切です。ケアを必要とする児童への対処に関しては、南山大学との連携を継続するとともに、様々な手を打っていきます。

進路指導については、何よりも大切にすべきであるのは児童の将来であり、進学先の学校で児童がその力を発揮し、伸ばしていけることです。「生き方指導」としての進路指導を理解してもらうための丁寧な取り組みが今後も求められます。具体的には、説明責任を果たすための成績評価と推薦基準の一層の明確化や学園内各中学校との連携の緊密化、児童や保護者と進路について考える機会を増やすこと等を検討していきます。

また、少子化や他校との競合、進学の問題等、小学校を取り巻く状況はしだいに厳しさを増してきています。志願者の掘り起こしやアドミッション・ポリシーに適う児童および保護者の確保の観点から入学試験制度についても新しいあり方を検討していきます。

こうした中であって、南山大学附属小学校に対する社会からの評価をよりよくしていくために、創立の趣旨を再確認しつつ、必要な項目について明確な評価基準を定めて、自己評価や外部評価をもとに絶えず改善を図っていきます。

(2)教育・研究

「自己点検・評価報告書」（2019年度）をみると、「教育課程実施計画の作成・改善」、「考える力の伸長」、「基礎・基本の定着」といった学習指導に関する項目では、それぞれ高いポイントを示していて、教員の達成感や満足度が相応に高いことがみてとれます。また、「全国学力・学習状況調査」（2018年度実施）の結果をみても、国語、算数、理科の各科目で、全国の国公私立学校の平均正答率を大きく上回っており、児童の学力も一定程度高い水準にあることがわかります。

小学校の特色の一つである英語教育についても効果は上がってきており、海外研修でもかなりコミュニケーションが取れていますし、国連英検ジュニアテストもほとんどの児童がAコースの1級の認定を受けています。

こうした点から、小学校が大切にしている、体験や学び合いを重視した児童中心の教育が実を結んでいると言える部分があります。しかし、南山中学校に進学した一部の生徒の状況を見ると、学習指導が十分に成果を上げているとは言い難い面もあります。

全体の水準を押し上げるために、2020年度以降新しい教育課程で指導を行っていきます。成果を評価しながら、さらなる改善を図っていきます。特に、ICTの活用については、研究を進めていきます。これまで1クラス分だったiPadの数を1学年分に増やし、がんばりタイムや個別指導等での活用も試行していきます。2021年度以降を目途に、一人1台iPadの体制構築も検討していきます。

また、個別支援としての学習サポートの在り方を2020年度までを目途に整備します。

さらに、教師の授業力向上を目指し、外部講師の指導を受けられる体制を2020年度以降も継続して整えていきます。

(3)施設・設備

第2グラウンドへの連絡橋や第3・第4会議室の設置など、より良い運用のための施設・設備の整備を進めてきました。今後もより良い学習環境・労働環境を構築するため、施設設備の改善を図っていきます。

学習環境の整備としては、老朽化した机・椅子の入れ替えが必要になってきています。傷み具合を見ながら随時更新を行います。また、プログラミング学習等のためにICT環境をしっかりとしたものにしていく必要があります。現在無線LAN環境の下で電波の届きにくい箇所があります。2020年度中を目途に、全ての教室で無線LANがストレスなく使えるようにします。

労働環境の改善としては、2020年度中に、必要がなくなった外調機を取り外し、そのスペースを倉庫や休憩室として整備します。

時代のニーズに応じて省エネルギーをさらに進めるため、2021年度末までを目途に完全な照明のLED化を実現します。

また、説明会等でプロジェクターを多用する体育館には、常設型のプロジェクターを2020年度中に整備します。

(4)社会貢献

もっとも重要な社会貢献は、建学の理念に沿った教育をしっかりと行い、人間の尊厳を推進する人を世に送り出すことです。このために、上記の取り組みをきちんと行っていきます。

目に見える形の社会貢献としては、地域清掃を継続します。聖歌隊やアフタースクール講座が地域の行事で発表することや、聖霊病院や近隣の老人ホームで行っている聖歌隊の歌唱奉仕を継続していきます。

さらに、学習の場として使わせていただいている隼人池公園の花壇については、花を植えて管理する体制を維持します。

(5)財政計画

入試種別の複線化および入試業務の見直しに伴い、2020年度に入学検定料の値上げを行います。授業料については、これまでは、5年に一度、全学年同時に授業料改定を実施してきました。しかし、2022年度以降は、年次進行で授業料の値上げを行っていきます。

児童募集に関しては、昨年度から始めた幼稚園特別入学審査やトワイライト合同相談会を継続しつつ、新たな取り組みを模索していきます。

広報の充実のため、2020年度にはWebページをリニューアルします。幼児の保護者にアピールできるような内容をしっかり整えていきます。また、スマートフォン対応にし、より見てもらいやすいWebページとなるように工夫を重ねます。

(6)組織運営と人材育成

2019年度までの執行部体制を見直し、2020年度から執行部会と運営委員会に分離します。これにより会議のスリム化と意思決定のスピードアップを実現します。また、校務分掌の適正化を図り、業務分担ができるだけ偏らないようにします。

人材育成に関しては、校内の研究・研修部の立案で、授業力向上や生活指導の充実等を狙った研修を行っています。また、2020年度以降も毎年、外部講師を招いての研修を行い、内に閉じこもった組織とならないよう、人材の育成を進めます。